

## 目的

とちぎ帯広空港の東京線ダブルトラック化や道東自動車道の道央―十勝間の全面開通により、道内外から十勝への交通アクセスが飛躍的に向上していることを契機として、オール十勝体制で十勝の「食」と「観光」の魅力を道内外に向けて発信し、交流人口の拡大及び特産品の販路拡大等を通じた地域経済の活性化を図る。

## 事業概要

- 1 周遊促進プロジェクト…十勝管内を周遊するスタンプラリー事業
- 2 魅力発信キャンペーン…各種媒体及び観光セミナーを通じた観光情報の発信
- 3 魅力向上プロジェクト…十勝の「食」と「農業」を巡るモニターツアー
- 4 プロジェクト推進・広報事業…事業に対する意見を広く聞くための会議・住民を対象とした成果発表会

## 主な取組

- 1①人気漫画「銀の匙」をテーマに十勝管内を周遊するスタンプラリー事業の実施（8/1～11/30）※19,259人が参加
- 2②新聞広告による十勝の観光及びスタンプラリー事業のPR（7/31）  
※発行部数 625,700部（北海道新聞）
- ③「銀の匙」掲載雑誌を活用した十勝の観光PR及びモニターツアー参加者の募集（8/5発売号）※発行部数 428,417部（週刊少年サンデー）
- ④首都圏における観光セミナー（講演会、商談会、試食会含む）の開催（9/10）  
※参加者 77人（旅行エージェント、メディア、とちぎ観光大使）
- ⑤新聞広告による十勝の冬イベント等のPR（1/30）  
※発行部数 51万部（北海道新聞）
- 3⑥「銀の匙」をテーマに十勝の「食」と「農業」を巡るモニターツアーの開催（8/25～27）※参加者 10人（首都圏在住の親子5組）
- 4⑦多様な意見を事業に反映させるための「地域再生プロジェクト推進会議」の開催（2/27）※参加者 20人（市町村、観光団体、有識者等）
- ⑧事業の成果を広く住民に周知のするための「地域再生プロジェクト成果発表会」の開催（2/25）※参加者 71人



①周遊促進スタンプラリー



②新聞を活用した観光情報発信



③週刊少年サンデーを活用した観光情報発信



④十勝の魅力発信セミナー



⑤冬の十勝の魅力発信



⑥「銀の匙」モニターツアー



⑦地域再生プロジェクト推進会議



⑧地域再生プロジェクト成果発表会

## 指標に基づく効果

設定指標	目標値	実績値	備考
観光入込客数 （観光客平均宿泊数）	（平成26年） 977.8万人（1.29泊） （平成29年度） 1,000万人（1.40泊）	（平成26年度上期）681.1万人（1.17泊） 参考（平成25年度上期）670.8万人（1.18泊）	
	（内容）道内の他圏域と比較して、観光入込客数及び平均宿泊数が少なく、観光客がもたらす経済効果において道内圏域との地域格差が生じていることから、各種事業を通じて観光入込客数の増加を図るとともに、滞在時間の延長による平均宿泊数の増加を図る。	（内容）上期の実績値は観光入込客数が前年比1.5%の増加、なお、道外客数は7.6%の増加となった。また、宿泊客数も対前年比で2.1%の増加となったが、平均宿泊数は微減となっていることから、次年度以降においても滞在時間の延長による宿泊数の向上を図る取組みが求められている。	

## その他の効果・成果

- ・周遊促進スタンプラリーの参加者が19,259人となるなど、道内外から十勝への誘客促進及び周遊促進による地域経済の活性化が図られた。
- ・各種媒体を活用した十勝の観光情報の発信及び首都圏におけるセミナーの開催等を通じて、十勝の魅力を発信したことから、道内外からの交流人口の拡大による地域経済の活性化が期待できる。
- ・十勝ならではの「食」と「農業」を巡るモニターツアーの開催及び内容のブラッシュアップを通じて、十勝への滞在型ツアーの造成促進が期待できる。

## 課題・問題点

- ・観光入込客数は近年増加傾向にあるものの、道内他圏域と比較した際に依然として大きな開きがあることから、各種情報媒体や観光プロモーションによる「食」と「観光」の一体的な魅力発信が必要。

## 今後の展望

本年度に実施した各種事業を通じて道内外に十勝の魅力が発信され、知名度及び誘客マインドの向上に伴う観光入込客数の増加が認められた。次年度以降も本プロジェクト事業の継続により、道内外に向けた十勝の魅力発信を行い、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図っていく。

### 【次年度想定事業】

- ・各種情報媒体を活用した十勝の観光情報の発信
- ・道内最大級の食イベント「さっぽろオータムフェスト」における「食」と「観光」の一体的な魅力発信
- ・3大都市圏における十勝の観光セミナーの開催